

桜を描いた名作と新収蔵品《花の夕》を同時公開。皇居・千鳥ヶ淵の桜とあわせて春を楽しむイベント

「美術館の春まつり」



東京国立近代美術館は皇居や千鳥ヶ淵、北の丸公園といった桜の名所エリアに立地しており、散策で巡るにも絶好のロケーションにあることから、様々な催しで皆様をお迎えします。

展覧会では、桜が描かれた名作《行く春》《小雨ふる吉野》をはじめ、船田玉樹《花の夕》を収蔵後初公開します。名作を鑑賞し、評判のガイドプログラムに参加してその魅力に深く迫り、飲食も楽しめて、周辺散策ではリアルなお花見を…そんな素敵な1日をお過ごしください。期間中の4月1日は無料観覧日で、年に1度の特別企画「春まつりトークラリー」も開催します。是非、お楽しみに。

見どころ

期間と会場

■期間: 2018年3月23日(金) - 4月8日(日)

※4月1日(日)は無料観覧日。また、期間中は周辺エリア一帯で「千代田のさくらまつり」(主催: 千代田区観光協会ほか)を開催予定。

■会場: 東京国立近代美術館本館および工芸館

展覧会

■本館 所蔵作品展「MOMATコレクション」(3月20日-5月27日)

桜を描いた名作、川合玉堂《行く春》(重要文化財)、菊池芳文《小雨ふる吉野》のほか、新収蔵作品として、昭和初期に日本画の革新運動をすすめた船田玉樹の代表作《花の夕》を公開します。華やかな花を描いた艶やかな日本画をご覧ください。

さらに、岡倉天心らによって創設された日本美術院創立120年特集として、菱田春草、安田靉彦、速水御舟、小倉遊亀、平山郁夫ら、そうそうたる顔ぶれの代表作もご紹介する、贅沢な展示をお楽しみ下さい。



船田玉樹《花の夕》1938年



川合玉堂《行く春》1916年 重要文化財



鈴木長吉《十二の鷹》(部分)
1893年

■工芸館 工芸館開館40周年記念所蔵作品展「名工の明治」(3月1日-5月27日)

明治の鍍金家・鈴木長吉の代表作の一つ《十二の鷹》を、数年にわたる修復後初のお披露目をするほか、明治150年にちなんで明治の精神を今に伝える名工たちの作品をご紹介します。

ガイドプログラム

本館では、ガイドスタッフと参加者の皆さまが対話しながら、まるで作品の謎解きをするような鑑賞体験ができると評判の所蔵品ガイドを毎日14時から実施。4月1日の無料観覧日には特別企画の「春まつりトークラリー」を開催します。スタンプラリー方式で作品をめぐる年に1度のスペシャルプログラムで、スタンプ3つ以上で特製カンパッチをプレゼントします。

工芸館では、水曜・土曜にタッチ&トークを実施しています。

静かに観る作品鑑賞とは一味違ったアクティブな鑑賞体験に是非ご参加下さい。



さらに

本館では、前庭にご用意する床几台で桜を眺めながらご休憩いただけます。レストラン「ラー・エ・ミクニ」によるガーデンカフェもオープンし、特製お花見弁当やサンドイッチなどのほか、各種ドリンク、桜色のロゼスパークリングワインも販売します。※カフェの営業時間等は異なる場合があります。



詳細

■本館 所蔵作品展「MOMAT コレクション」(3月20日-5月27日)

桜を描いた名作、川合玉堂《行く春》(重要文化財)、菊池芳文《小雨ふる吉野》のほか、新収蔵作品として、昭和初期に日本画の革新運動をすすめた船田玉樹の代表作《花の夕》を公開します。華やかな花を描いた艶やかな日本画をお楽しみ下さい。

さらに、4月13日から開催される「横山大観展」と関連し、大観とゆかりの深い日本美術院の画家たちの特集も行います。1898(明治31)年に岡倉天心らによって創設された日本美術院が創立120年目を迎えることから、菱田春草、安田靉彦、速水御舟、小倉遊亀、平山郁夫ら、そうそうたる顔ぶれの代表作が並びます。

他にも、アメリカを代表する写真家のひとり、ロバート・フランクの特集をはじめ、明治から現代まで200点以上の作品が並び、盛りだくさんの「MOMAT コレクション」をお楽しみ下さい。



菊池芳文《小雨ふる吉野》1914年

○会期:3月20日(火)~5月27日(日)

○観覧料:一般500円、大学生250円(金曜・土曜の17時以降は一般300円、大学生150円)

※高校生以下および18歳未満、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料

※当日に限り、工芸館もご覧いただけます。

■工芸館 工芸館開館40周年記念所蔵作品展「名工の明治」(3月1日-5月27日)

明治の鍍金家・鈴木長吉の代表作の一つで、本物の鷹と見紛うリアルな表現と、金、銀、銅、赤銅、四分一といった金属の色を巧みにちりばめた華やかさの《十二の鷹》を、数年かけた修復後初のお披露目をします。さらに明治150年にちなんで、高い技術力と表現力を兼ね備えた明治の精神を今に伝える名工たちの作品もあわせてご覧いただけます。

○会期:3月1日(木)~5月27日(日)

○観覧料:本館の観覧料にて、当日に限り工芸館もご覧いただけます(工芸館のみ観覧料は一般250円、大学生130円)

■ガイドプログラム

所蔵品ガイド(本館)

作品解説を聞く一方向的なものではなく、ガイドスタッフと参加者の皆さまが対話しながら、まるで作品の謎解きをするような鑑賞体験ができる評判のガイドプログラム。作品を自由に感じ、想像をめぐらせ、それを言葉にして語り合うことで、新たな作品の魅力を発見していただける機会となるでしょう。毎日14時から開催。無料(ただし、要観覧券)でどなたでも参加できます。

「春まつりトークラリー」(本館)

4月1日の無料観覧日に開催するスペシャルプログラム。ガイドスタッフが20箇所以上の作品の前で皆さんをお迎えします。対話による作品鑑賞を楽しみながら展示室を巡り、作品を鑑賞するごとにもらえるスタンプを3つ以上集めると特製カンパッチをプレゼント。昨年も大盛況だった年に1度の人気プログラムをお見逃しなく。

4月1日(日) 無料観覧日 12:00-15:00、先着2,000名様

タッチ&トーク(工芸館)

人間国宝をはじめとする作家の作品をさわったり、展示会場で会話をしたりしながら、皆さん自身の鑑賞する力を上げましょう。水曜・土曜の14時から開催。

■まつりを彩る飲食やグッズ

本館では、期間中は前庭に床几台をご用意し、桜を眺めながらご休憩いただけます。レストラン「ラー・エ・ミクニ」によるガーデンカフェもオープンし、特製お花見弁当やサンドイッチなどのほか、各種ドリンク、桜色のロゼスパークリングワインも販売します。またミュージアムショップでは、オリジナル商品のほか、千鳥が淵の桜の枝で染色したスカーフやハンカチ、コースターなどを期間限定で販売し、売上の一部は桜の保全活動「さくら基金」に寄付します。

■美術館概要

◆会場・アクセス:東京国立近代美術館(東京都千代田区北の丸公園3-1)

東京メトロ東西線「竹橋駅」(1b出口)徒歩3分、東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下駅」徒歩約15分

東京国立近代美術館工芸館(東京都千代田区北の丸公園1-1)

本館から徒歩5分、上記「竹橋駅」(1b出口)徒歩8分、「九段下駅」徒歩12分

◆休館日: 月曜日(ただし、3月26日、4月2日、4月30日は開館)

◆開館時間: 10:00-17:00 本館のみ金曜・土曜は20:00まで(いずれも入館は閉館30分前まで)

◆お問い合わせ:03-5777-8600(ハローダイヤル) <http://www.momat.go.jp>(ホームページ)

報道関係のお問い合わせ先

広報室 三輪、紀太(きだ)、藤田
工芸館 高橋

TEL:03-3214-2564 FAX:03-3214-2576

TEL:03-3211-7781 FAX:03-3211-7783

e-mail:pr@momat.go.jp

e-mail:kogei-pr@momat.go.jp